

取^ト有^{レリ}見^ミ人^{ヒト}

毛^毛
欲^力
得^毛

と如く同十九卷中も此詞如く永久四年

世に堀川次郎
百首と云

中も鈴のしを鈴うき波うき

くさくさ 夢を思ひしを 又正治二年の百首の巻 維子

心かれのれれくまきふ書の著るゆ也

新六帖光俊朝臣の哥
あともあけたとあけり
るにきき

廣くてもけふはあつたの中あつたのを捉ふ

なりとひのそを雲はむ消る春の野よゆくみ葉ハ

つゝもぐ鷹を食せし雛あどちう方らさるう海をいへる形り

又鷹狩は雉兔をとりくちのちのちハ皇朝鷹狩の

始の得も然と雖あれば成べし。あらずとに云べし。鷹に